

自然災害への対応について（生徒・保護者に通知済 HP 掲載）

静岡市立清水桜が丘高等学校

令和8年5月29日 改定

1 基本的な心構え

（１）身の安全を最優先。あわてず状況を判断し、まずは自らの安全を確保する。

（２）家庭内で、最悪の事態を想定した非常時の対応について話し合っておく。

例・災害時の連絡方法・避難所や避難経路の確認、家族の集合場所

2 悪天候時(台風等)の対応

暴風警報、警戒レベル4以上(河川氾濫・大雨・土砂災害・高潮)等が発表されている場合は、以下の対応をとる。

午前6時30分の時点で、居住地または学校所在地(静岡市南部)において発表されている場合、

午前11時までは自宅待機とする。

午前11時までに、居住地かつ学校所在地(静岡市南部)において発表が解除された場合は、安全に気を付け午後1時までに登校する。

午前11時までに、学校所在地(静岡市南部)において発表が解除されない場合は休校とする。

（１）電車通学者は電車の運行が止まっている場合は自宅待機とする。運行が再開され次第、安全に気を付けて登校する。

（２）道路・バス等の交通事情や被害状況により登校不可能となった場合は、自宅待機とする。

（３）登校途中で安全の確保が心配される場合は、各家庭の判断で登校か自宅待機かを決める。

（４）登校後、警報等が発表され天候の悪化が予測される場合は、校内で検討し帰宅等の必要な措置をとる。

（５）特別警報が発表された場合は、地元市町避難情報に従い、ただちに命を守る行動をとる。

（６）その他の留意事項

ア 各自が居住する地区に発表される情報に従って行動する。

イ 休校となった場合は、長期休業中に授業を補充する日を設ける場合がある。

ウ 週休日、長期休業中の場合も上記に準じ家庭で判断し、学校からの連絡（Classi または HP）に注意する。

エ 天候回復後も登校できない状況が続いている場合は学校に連絡（Classi）を入れる。

3 大規模地震発生時の対応

（１）「南海トラフ地震臨時情報」が発表された場合

冷静に情報を収集し、情報の内容に応じた行動をとる。学校は、情報の内容を踏まえて対応を検討し、Classi または HP 等により対応等を迅速に連絡する。

（２）大規模地震発生時

在宅時	在校時	登下校途中
自宅待機を原則として、保護者の指示に従う。	校舎内等、安全な場所に避難誘導し安全を確保する。安全に帰宅できることを確認した上で、被害状況に応じて、保護者への引渡し等を開始する。	最寄の安全な場所(避難場所)等に避難し、安全を確保する。

4 津波に関する情報が発せられた場合及び津波発生時における学校・生徒の対応

	在宅時	在校時	登下校途中
津波注意報 1m(20cm～1m)	情報に注意しつつ、登校する。	情報に注意しつつ、通常の活動(授業等)を継続する。	情報に注意しつつ、登校あるいは速やかに帰宅する。
津波警報 3m(1m～3m) 巨大地震の場合の表現 高い 大津波警報 〔特別警報〕 5m(3m～5m) 10m(5m～10m) 10m 超(10m～) 巨大地震の場合の表現 巨大	高台か指定の避難ビルへ避難 ○午前6時30分に警報が発令されている場合 ・自宅待機する。 ・必要に応じて直ちに避難する。 ○午前11時までに警報が解除されている場合 ・十分注意して登校する。 午後の授業の支度を持参する。 ○午前11時以降も警報が継続されている場合 ・学校は休校とする。 ・生徒は自宅学習	校舎内で待機 ○警報解除後、安全に帰宅できることを確認した上で保護者へ連絡、引き渡し等を行う。	高台か指定の避難ビルへ避難 ○生徒は、保護者と学校に対し、安否状況の連絡に努める。
(大)津波発生時	高台か指定の避難ビルへ避難 ○生徒は、保護者と学校に対し、安否状況の連絡に努める。	校舎内で待機 ○発生後、市・県の危機管理局等と連携して安全に帰宅できることを確認した上で保護者へ連絡、引き渡し等を行う。	高台か指定の避難ビルへ避難 ○生徒は、保護者と学校に対し、安否状況の連絡に努める。

*** 南海トラフ地震や津波に関する情報が発せられた場合、及び地震・津波発生時は、Classi にて必要な情報を周知する。**

参考：わが家の防災対策〔静岡市〕より

津波に対する日ごろの備え

1 家族会議や避難訓練を

津波が発生したとき、どこに避難し、どう連絡を取り合うのか、家族で事前に話し合っておきましょう。指定の避難場所や避難ビルの位置、そこに到達するためのルートは複数確保できるのかなども共通認識をもっておきましょう。地域の防災訓練に家族で参加し、避難にかかる時間などを確認しておきましょう。



2 津波避難マップを確認する

静岡市では、津波発生時の浸水域や避難場所を示した津波避難マップ(浸水想定地図)を web サイトで公開しています。自宅周辺の状況を確認しておきましょう。ただし、実際の津波浸水域が必ずしも避難マップの想定と一致するとは限りません。

